

着任挨拶

平成 30 年 10 月
地方連携推進室長 四方明子

平成 30 年 9 月 15 日付で外務省地方連携推進室長に着任しました、四方明子(しかた あきこ)と申します。着任から1ヶ月が経ちました。(当室設立から10年を経てもいまだに発せられる)「外務省が、地方連携、ですか?」という反応にも、むしろ喜んで私たちの取組を説明し、事業の準備を共に進めている地方自治体への「郷土愛」も、早くも芽生えて参りました。

外務省に入省以来、在外公館勤務は4か所で、それぞれが「第二の祖国」となっています。当室着任後に、日本国内で住んだことがある場所を数えてみると、都道府県レベルで5か所に上ることに気づきました。本籍地と親の居住地も含めると計7か所にも!やはりそれぞれに「第二のふるさと」としての愛着を持っております。今後は、さらに多くの地方の国際的取組に直接関わらせていただくことになり、とても楽しみにしております。

外国との交流が多い外務省ですが、これまでの部署でも、日本の地方と協力した取組が数多くありました。

直前の広報文化外交戦略課では、「日本ブランド発信事業」の枠組みで、地方の伝統工芸関係者や忍者さん等に、御自身のお仕事の魅力と地方の魅力を合わせて外国で紹介していただきました。また、政策広報動画の制作では、地方自治体の環境協力が海外で大きな成果を上げ現地の市民に喜ばれている様子など、地方の国際的な取組を複数紹介しました。

2度のメキシコ勤務では、各県にゆかりのある日系人の方々とのおつきあいが日常でした。最近の英国勤務では、地方自治体のプロモーションに在外公館施設を利用していただきました(地方の魅力発信プロジェクト)。日本通を自任する英国人も、展示や体験ブースを五感で楽しみ、「ロンドンではどこで買えるのか」「次回の訪日では地方にも足を伸ばしたい」とのコメントをいただきました。大使館内の企画展示も、ロンドンの方々の審美眼に応えようと必死で工夫を凝らしておりましたが、複数の地方のハイレベルな伝統的工芸品を、順次自信を持って紹介することができました。また、トラファルガー広場に毎年7万人が集まる「ジャパン祭り」では、地方の伝統芸能のステージやグルメ体験、自治体の「ゆるキャラ」のダンス等に広場中の観客が参加し、日本文化を重層的に知っていただけたと思います。

このように、地方は、国際的相互理解、日本全体のブランド力強化、信頼の醸成等様々な観点から重要な役割を果たしています。

地方は、従来の姉妹都市や文化交流に加え、インバウンド観光推進や特産品の販売促進、投資誘致などの経済面、そして最近ではSDGs等の分野で、主体的に国際的な取組を拡充しています。その一方で、「外国でイベントを実施して、当日は多くの来場者に恵まれたけれど、長期的な成果に繋げるにはどうしたら良いか」とのお悩みも耳にします。

そういう方々にこそ、外務省と在外公館をもっと活用していただければ、ささやかながら貢献できるのではないかと、というのが私たちの思いです。ちょっと大きめのアドバルーンを上げてみます。(それぞれ、周到的な仕込みとそのための時間がかかることは御理解いただく必要があります。)

① 「お国自慢」を、外国の方々に対してよりインパクトのある「ストーリー」に生まれ変わらせたい！

→外務省と在外公館には、現地事情に通じた職員や館員がいます。必要な現地情報の提供し、地方の魅力が最大限発揮されるようお手伝いします。

② 現地の方々を巻き込み、より深く長続きする取組につなげたい！

→在外公館は、その国に常駐しています。日々、様々な団体やキーパーソンとのネットワークを築いていますので、精一杯のお手伝いをします。

③ 様々な分野の専門知識が必要になりそうだが、在外公館に相談して大丈夫？

→在外公館の守備範囲は案外広いのです。各省からの出向者も勤務し、また、独立行政法人等の現地事務所や現地進出日系企業等とも緊密な関係にあります。「オールジャパン」体制でお手伝いをします。

地方連携推進室は小さな所帯で微力ではありますが、地方の方々に扉を大きく開けて、在外公館を含めた外務省全体でのサポートに繋がりたいと思っております。「外務省に相談してみて良かった」と言われる地方連携推進室に、より一層近づけるよう精進して参ります。

皆様の御協力・御支援をよろしくお願い申し上げます。